

## 協議会の活動

## 活動紹介

## 「新しい東北」交流会in仙台を開催しました。

平成28年2月11日（木・祝）に「新しい東北」交流会in仙台を宮城県仙台市の仙台サンプラザホール、ホテルにて開催しました。先導的なビジネスの仙台、パネルディスカッション、90以上の団体によるブース出展等を行い、約360団体から約760名の方にご来場いただきました。

## 開催概要ははこちら

東日本大震災からもう5年。復興の歩みは、これからも続いていきます。今回の交流会では、これまでに東北の各地で生まれた「新たな挑戦」を紹介し、今後の復興の在り方を皆様と一緒に考えるため、ホテルとホールの両会場で、パネルディスカッションやブース出展など「この先へ続く、東北の『新たな挑戦』」をテーマとした様々な企画を行いました。

ホテルでは、「先導的なビジネスの顕彰」や「パネルディスカッション～この先の『復興支援』とは～」、「移住者公開座談会／宮城復興局創始するワンドードード」、「組織活性化研修」、「取組発表」、「文化芸術による復興支援～復興から創生に向けての新たな挑戦～」を行いました。

ホールでは、「新たな挑戦」に取り組む団体等によるブース出展とプレゼンテーション、「専門家による商品アドバイス」、「復興支援インター参加学生による活動報告」を行いました。

交流会の最後には、出展者、登壇者、来場者の皆様に自由に親睦を深めていただく懇親会を開催しました。

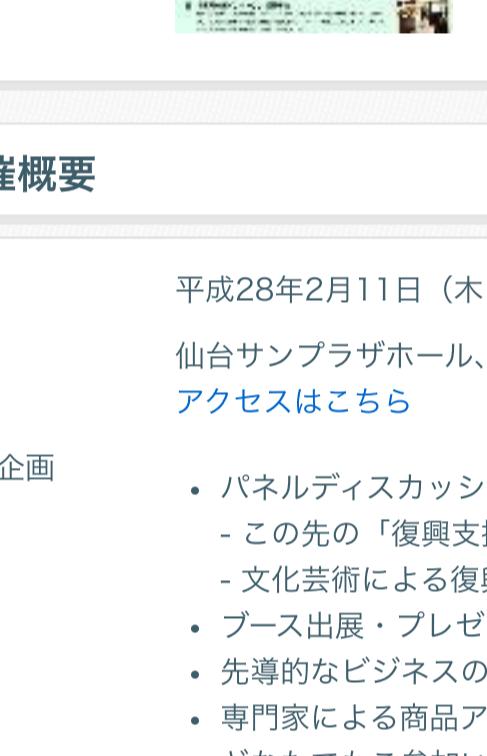
ホテルのクリスタルルームで行われたオープニングでは、高木復興大臣からの挨拶の後、村井宮城県知事からご挨拶を頂きました。高木復興大臣からは、平成28年度は復興・創生期間の初年度であり、「地方創生のモデル」となる復興の実現に向けた第一歩であることをお伝えいたしまして、来場者に向けて積極的に情報共有や意見交換を行っていただき、地域を魅了した連携に向けたつながりを生み出していくください。今回の交流会をきっかけとして、復興に向けた新しい展開が生まれることを大いに期待しています。その後、被災地で先導的なビジネスを展開している事業者（復興庁「私たちが創る～産業復興創造 東北の経営者たち～」）の掲載事業者の取組内容が各事業者の取組内容の紹介を行いました。震災による抱いだき不足や風評被害等の課題を新商品開発やITシステムの導入などの新しい取組により乗り越えてきた6団体が顕彰・紹介されました。



その後、被災地で先導的なビジネスを展開している事業者（復興庁「私たちが創る～産業復興創造 東北の経営者たち～」）の掲載事業者の取組内容が各事業者の取組内容の紹介を行いました。震災による抱いだき不足や風評被害等の課題を新商品開発やITシステムの導入などの新しい取組により乗り越えてきた6団体が顕彰・紹介されました。

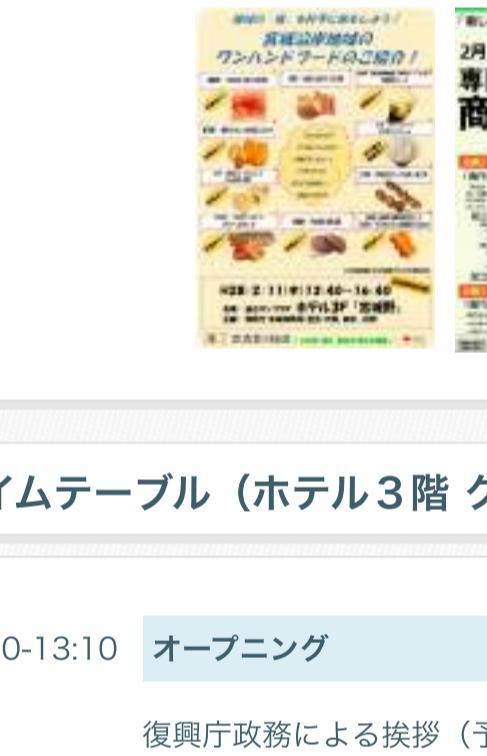


「パネルディスカッション～この先の『復興支援』とは～」では、藤沢 烈 氏（一般社団法人RCF）をモデレーターと迎え、石原 直樹 氏（一般社団法人みやぎ連携復興センター）、河崎 保徳 氏（ロート製薬株式会社）、小島 真実 氏（ミュージックセキュリティーズ株式会社）、笠野 健 氏（宮城県石巻市副市长）にご登壇いただき、NPO法人、企業、自治体それぞれの立場から、今後の課題やこれからの方々の復興支援への関わりについて議論がありました。統一して宮城県県知事からは、「民間企業、大学、NPO法人などの復興の担い手が一堂に会する本日の交流会が新たな連携機会の契機となることは、宮城県が目指す『創造的復興』さらには『新しい東北の創造』に向けて、誠に意義深いものである。」とのご挨拶をいただきました。



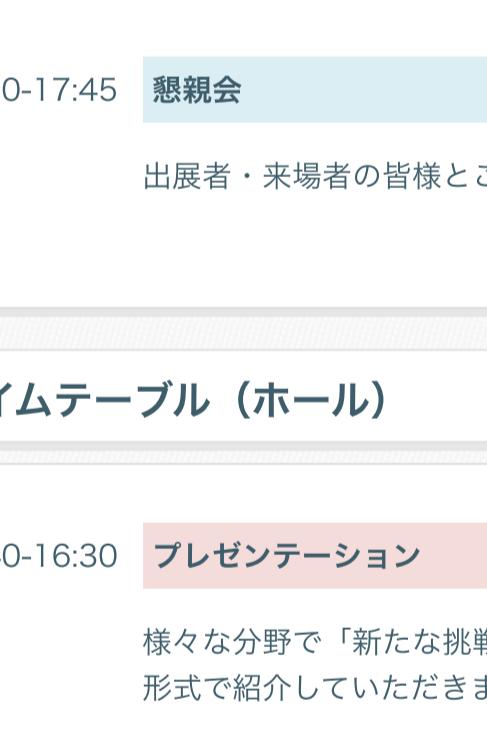
ホテルの青葉では、復興庁 宮城復興局による企画が行われました。移住者公開座談会では、被災地支援をきっかけに被災地から宮城県内に移住してきた方をお招きし、今後移住者を増やし、地域づくりに活動する方へお話を伺いました。

また、復興の進みつつある宮城沿岸部を歩きながら手軽に食べられる、宮城復興局職員がおすすめする「ワンハンドドードード」を紹介する冊子の配布と試食提供が行われました。

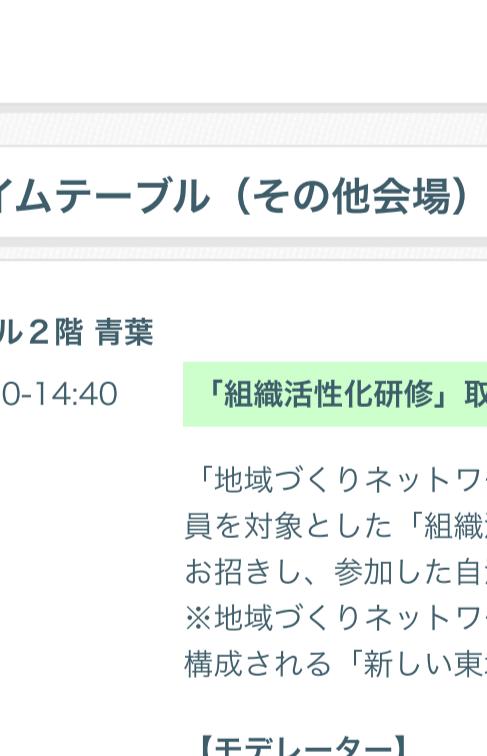


ホテルの青葉では、「新しい東北」官民連携推進協議会の分科会の一つである「地域づくりネットワーク」の取組として行った「組織活性化研修」の取組について発表しました。研修の開催地である島根県海士町の方をお招きし、研修内容の紹介を行った後、研修に参加した被災自治体の職員から、研修内容の実践状況等を報告しました。

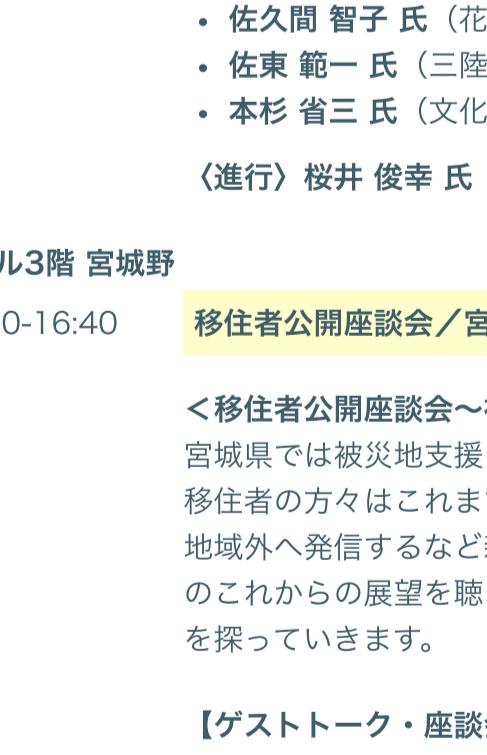
また、文化芸術による復興推進コンソーシアムのご協力により、文化芸術を活用した復興支援活動を振り返り、文化芸術が今後復興に役割を果す文化芸術からの方々の立場から、これまでの復興支援の成果・課題を振り返るとともに、「復興・創生期間」における復興支援の在り方・課題についてご議論いただきました。



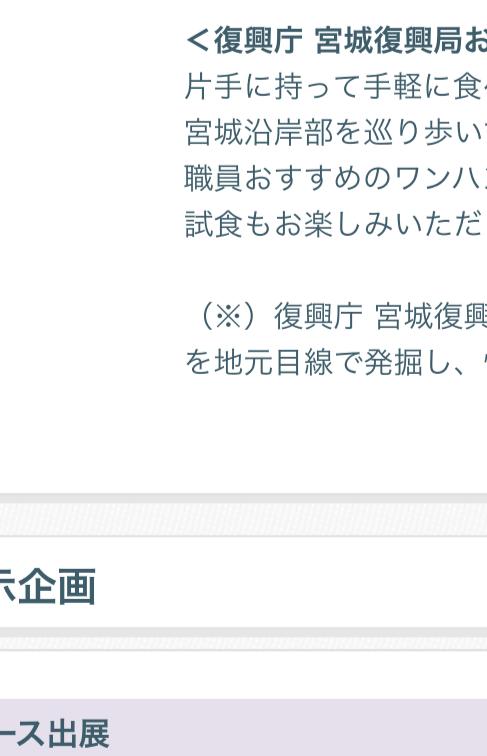
ホールでは、「新たな挑戦」に取り組む団体を中心に90以上の団体がブース出展を行い、各団体の取組内容が紹介されました。試食を提供しているブースや商品の展示を行っているブースも多くあり、ブースを訪れた方と商品について意見交換を行っている姿が多く見られました。



ホール内のステージでは、24のブース出展団体がプレゼンテーションを行いました。自団体の取組の背景や取組にかける想いをお話いただき、ブースでの活動紹介につなげていただきました。



また、百貨店OBの方や「究極の土産」の審査員などをお招きし、東北の事業者の商品に対し、アドバイスを行いました。専門家からは、誰を対象にして売りたいかを明確にした上で「商品のセールスポイント」が伝わる工夫をすべきといったアドバイスがなされました。



復興大学主催の「復興支援インター」に参加した学生からの活動報告も行われ、宮城県女川町、宮城県石巻市の水産加工業者や飲食店でのインターンを通して感じたこと、学んだことなどを参加した大学生から発表いただきました。



復興地において様々な経営課題の克服に取り組みつつある企業の紹介を行います。

被災地において様々な経営課題の克服に取り組みつつある企業の紹介を行います。

被災地において様々な経営課題の克服に取り組みつつある企業の紹介を行います。